



菅波 茂

20日に放送された山陽放送の番組で、石井正弘知事と明石康・日本紛争予防センター会長が「国際貢献先進県おかやまにエール」という題で対談し、私が司会を務めた。

「国際貢献は人材である。岡山で優秀な人材を育成し海外に派遣するとともに、海外から開発などの専門家を岡山に招くべきだ」。明石会長の論旨は明快だった。

これに対し、石井知事は「岡山には、全国的にも貴重な人材育成機関の公設国際貢献大学校がある。そして『新岡山国際化推進プラン』にあるように、国際貢献に十分に応えられる社会

国際貢献先進県構想の正統性

インフラもすでにある」と説明。岡山空港を国際貢献空港にすべく、緊急救援に不可欠な備蓄機能などの整備のため、予算を執行したことを述べた。

明石会長も救援機を被災国に派遣することは国際的に非常に分かりやすいメッセージになると大賛成であった。27歳から国連活動に参加した明石会長の助言は多岐にわたり適切であった。今後も国際貢献先進県構想の推進に尽力したいとのことだった。

外務省は民間人を大使や省内に登用し始めた。まさに国民参加型人道援助の推進である。外務省は「国益」を目標にした活動を、NGOは「命の普遍性」に関する活動をする。両者の協力が融合した時に「公益」というコンセプトが発揮できる。明石会長はそれを「人間の安全保障」と説明した。国連機関をはじめとして欧米先進国の人道援助のコンセプトである。地球に生まれたすべての人に「十分な食、健康、そして教育」を保障することである。

阪神大震災の時に県民を挙げて行った救援活動に、神戸新聞社は社説で深く感謝した。「岡山は弱者が存」の危機に瀕した時に動く」。石井知事の提唱する国際貢献先進県構想の正統性の根拠である。国民参加型人道援助に磐石の体制が確立するのは、地方自治体が参加する時である。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)